



3年学年だより

発行日：令和2年 1月 31日（金）

発行者：横浜市立南高等学校附属中学校

校長：三浦 昌彦 NO. 9

新しい年を迎えて ～実行！～

校長代理 白田 淳子

新たな年がスタートしました。2020年はオリンピック・パラリンピックイヤーです。また令和になって初めての新年、干支の最初の子年ということで、いろいろなことが新しく始まるようなワクワクした年明けとなりました。南高附属中は開校9年目となります。良い伝統や特色を生かしつつ、新しい社会の動きに対応できるようにチャレンジを続けていこうと思います。中高6年間の一貫した教育を深めていくよう努力してまいりますので、これからもご理解、ご協力をお願いいたします。

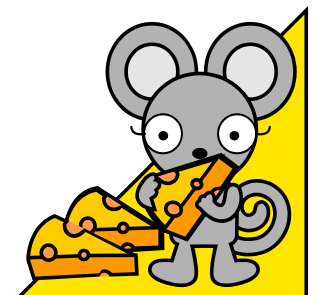
さて、恒例ということで開校当初から行われている「校長面談」（本年度は校長代理面談）を、昨年12月に1年生全員と行いました。校長代理室で1対1で面談をするので、一人ひとりとお話しする時間は5分程度と大変短かったのですが、とても有意義な時間となりました。面談の前に考えておいてほしい課題を出しました。それは、「もっとこの学校を好きになるために自分ができること」です。「この学校は好きですか？」から始まり、勉強のこと、友達のこと、家のこと、自分のこと…、たくさん話を聞くことができました。そして課題について最後に話してもらおうと、一番多かった答えは「話をしたことがない人と話して人間関係を広げる」でした。素敵な回答です。しかし、私の課題の肝は「**自分ができること**」なのです。どんな時にどう話しかけるのかな、急に知らない人が話しかけてきたら変な感じにならないかな、とちょっと意地悪な質問をしたら、返答に困ってしまった人が何人もいました。

自分がやろうと思ったことを「**実行する**」のは大変です。実際に行動を起こすには勇気が必要です。また、独りよがりな行動で相手に嫌な思いをさせないような気配りが必要です。さらに、結果が必ずしも思うとおりになるとは限らないので、ダメージを受けたときに自分の心をフォローできなくてはなりません。でも、私はみなさんに「**実行する**」人になってほしいと思うのです。

本校は「学校は失敗するところである」を大事にしています。ただ、それはやみくもになんでも考えなしにやれと言っているわけではありません。いろいろなことを考え、やろうと判断したなら、失敗をおそれずにぜひ実行してください。そこからがスタートです。

2年生、3年生のみなさんも、年の初めに目標を立てたのではないのでしょうか。その目標を達成するために、日々、小さな実行を積み上げてください。実行して成果をあげたときの充実感や自信、また、うまくいかなかったときのくやしさを忍耐は、みなさんを必ず成長させてくれるはずです。本校はそのようなみなさんの成長を支えることができる学校でありたいと考えます。

今年もみなさんの活躍を期待しています。



認知症サポーター養成講座

1月18日(土)、土曜EGGで「認知症サポーター養成講座」が行われました。南高校・附属中学校に隣接する地区センターケアプラザのスタッフの方々が来校され、認知症の症状の概要や声のかけ方や接し方などを寸劇を交えながら、中学生にとって大変わかりやすく説明してくださいました。

認知症という言葉は聞いたことはあるけれど、実感が伴っていませんでした。良いイメージを持っていなかったりした人が多かった中、お話の中の「認知症は長寿の勲章」という言葉に、「ああそうなんだ」と目からうろこがおちた様子でした。また「自分が外国の人と話しているような感じ」「認知症を患っている本人も苦しんでいて、誰よりも自覚をもっている」「ああそうなの

ですね、でも〇〇ですよ。と一度肯定した後に教えるとよい」「後ろから声をかけられるとびっくりしてしまうから、正面から声をかけて」などなど、お話の中にたくさんの発見や共感があり、大変有意義な時間となりました。誰もが発症する可能性のある、身近で、社会全体の課題である「認知症」には、正しい知識を身につけたみなさんの若い力が支えとなります。

❖急に大きな声を出したりする理由がわかって、認知症の人を怖いと思わなくなりました。とてもためになる講座でした。❖認知症であろうとなかろうと困っている人を見つけたら声をかけて、少しでも何かを手伝いたい。結局は互いを思いやる気持ちを大切にしたい。❖責めない！❖今まで認知症というものがどのようなものか全く知らなかったので、今回の講座は貴重なお話を聞かせていただきました。❖認知症の方本人が一番こわく、つらく、悲しいのだと理解した。❖小学校の時にも一度似たような講座を受けたことがあるけれど、その時はしっかりと意味を理解できていなかった。改めてこの講座を受けることができて良かった。❖認知症の症状の中には良くなるものもあると知った。❖今まで認知症に対して少し怖いイメージがありましたが、誰でもなると知って他人事ではないと思いました。❖祖母が認知症になる直前みたいなので、優しく接しようと思いました。❖実際に認知症になった人の家族の方の話を知るとより理解を深められるのではないかと思います。



卒業論文目下執筆中！

3年間のEGG学習の集大成である卒業研究。その研究成果を論文としてまとめる活動が真剣に繰り返されています。論文提出は2月18日(火)朝です。みなさん執筆は順調に進んでいますか？明日から始まる適性検査や高校入試に伴う休業日を利用して、あせらず、あわてず、あきらめず自分のペースで執筆し、完成させてください。卒業論文はA4サイズ用紙20ページ以上です。長期休みに入る前に、提出方法や注釈・参考文献のつけ方などの不安なことをきちんと確認しておきましょう。

2月18日に、みなさんが晴れやかな顔で、卒業論文を携えて登校して来ることを待っています。こつこつ努力することのできる6期生の本領発揮の時です！

また、3月7日(土)土曜EGGにて6期生の卒業研究発表会を予定しています。一人ずつ研究概要をプレゼンしますので、どうぞご参観ください。当日は7期生も発表会を聴講し、7期生自身の来年度の卒業研究のスタートを切ります。



校内書き初め展 ～おそらく人生ラストの書き初め～

冬休み課題のひとつである書き初め作品を、今年度も校内書き初め展として全校で一斉に掲示しました。真っ白な画仙紙に黒々とした文字が書かれた作品が廊下や教室に整然と掲示されると、なんとも引き締まった清々しい空気に包まれます。年内の書写の授業では「の」の字を連続して書きながら、力を入れたり抜いたりする行書ならではのタイミングを練習しました。そんな「書写」の授業も高校に入るとなくなり、「書道」という選択教科の一つになります。将来中学生時代を振り返ったときに、今回の書き初めが、人生ラストの筆を持つ機会だったと懐かしむのかもしれませんが。

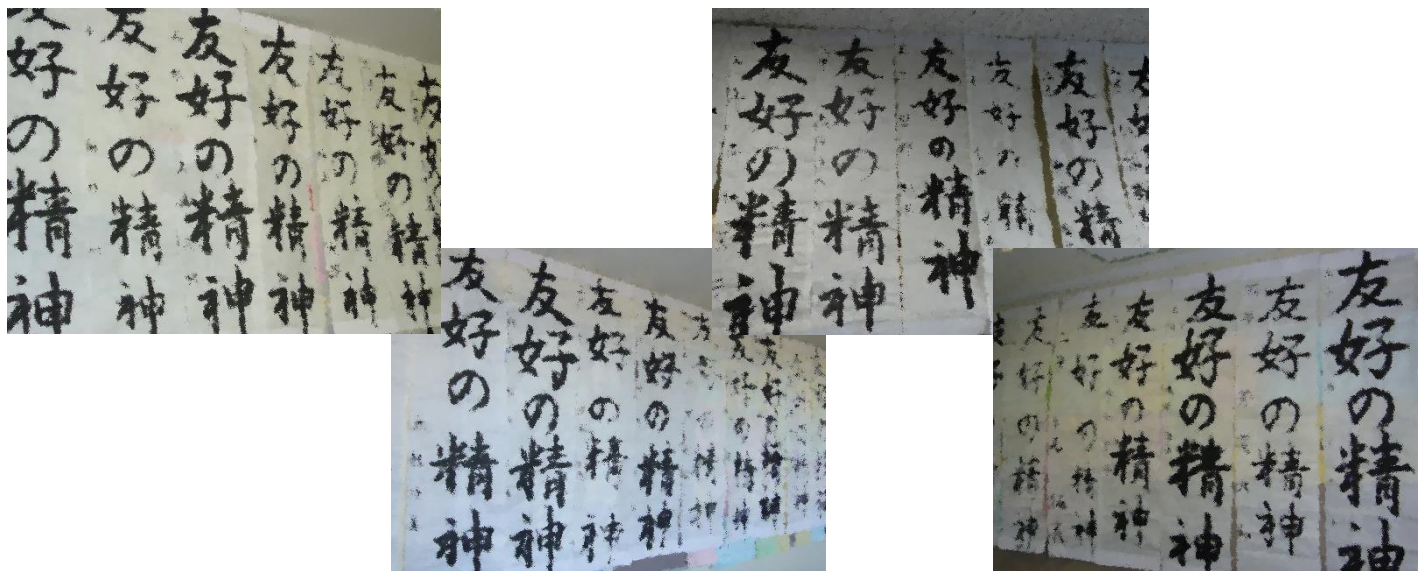
今年度も、高校書道部の先輩方が、各クラスの作品を見て「いいな！と心惹かれた作品」にメッセージを書いてくださいました。3年生には12枚のメッセージカードが届きました。高校生の先輩方もみなさんと同じように毎年書き初めに取り組んできたからこそ、短い冬休みの中で書き初めに格闘する中学生にエールを送りたいのだと話してくださいました。春から高校生となる6期生も、自分の得意なことや好きなことを通して後輩たちを応援できるような先輩になってほしいと願います。

優秀賞

1組： ████████ さん、 ████████ さん、 ████████ さん、 ████████ さん
2組： ████████ さん、 ████████ さん、 ████████ さん、 ████████ さん
3組： ████████ さん、 ████████ さん、 ████████ さん、 ████████ さん
4組： ████████ さん、 ████████ さん、 ████████ さん、 ████████ さん

高校書道部からカードをいただいた皆さん

1組： ████████ さん、 ████████ さん、 ████████ さん
2組： ████████ さん、 ████████ さん、 ████████ さん
3組： ████████ さん、 ████████ さん、 ████████ さん
4組： ████████ さん、 ████████ さん、 ████████ さん



BOSS子のつばやき

卒業論文執筆にあてているEGGの時間、皆の作業の様子を見て回る日がありました。印象としては、例年通り（もしかしたら例年以上に？）計画的に進められていて、凛々しい顔つきで、与えられた時間を黙々と作業にあてている人が多いな～という感想。それでも、個々によって進行状況は違うし、ゴールまで走りきる直前は、なかなかしんどい時間が待っているかもしれません。卒業前の一つの山場が今です。皆で声をかけあって乗り越える6期生の姿を見たいです。頑張ってね！（^）/